

開会 令和4年2月4日
閉会 令和4年2月4日

足利市総合教育会議

足利市教育委員会

令和4年度第2回 足利市総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年2月4日(水)
開会 午前10時00分 閉会 午前11時20分
- 2 開催の場所 足利市役所4階 特別会議室
- 3 出席者
市長 早川 尚秀
副市長 塚原 達哉
教育長 須藤 秀幸
教育委員 笠原 健一
教育委員 市橋 雅子
教育委員 照本 夏子
教育委員 木村 知巳
- 4 会議出席した事務局職員
総務部長
行政管理課長
教育次長
教育総務課長
観光振興課長
教育総務課庶務担当総括主幹
教育総務課庶務担当主幹
文化課長
文化課主幹
史跡足利学校事務所長
- 5 傍聴 傍聴者 1名
- 6 会議日程
市長あいさつ
教育長あいさつ
議題 (1) 教育大綱について
(2) 観光という視点を活かした文化行政の推進について

7 会議の経過

○ 開会

○ 早川市長あいさつ

本日はお忙しい中を総合教育会議に出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から教育委員の皆様方には、本市の教育行政に対しまして大変なご尽力をいただいておりますことを、この場をお借りいたしまして御礼を申し上げます。

今月6日には市制100周年記念式典、そして11日から市制100周年記念特別展が市立美術館で開催されます。コロナ禍ということで、感染が拡大している中ではありますが、新規陽性者数に注目するだけではなくて、重傷者、中等症者、無症状、軽症、病床使用率などにも数字に注目して、正しい情報を市民の方に伝えていきたいということで、県にアプローチはしているのですが、残念ながら県全体の数字しか出てこない、その中で足利市だけを抽出した数字が出てこないものですから、市民の方々に市内の状況を正確になかなか伝えることができず、非常にジレンマというか、そんな思いでいます。できるだけ正確な幅広い情報をきちんと提供しながら、市民の方々に正しく認識をしてもらえるような努力をしていかななくてはいけないと思っております。

特別展につきましては、第1回目の予約枠約9,000人がたったの3時間で予約が埋まってしまい、全国からの反響が非常に大きくて、3万人を超える方々からの応募をいただいております。まん延防止等重点措置が適用されている中ではありますが、会場は緊急事態宣言下でも開催できることを想定しての予約数として準備をしておりますので、しっかり準備を進めていきたいと思っております。そして、お迎えした方々に足利市のファンになってもらえるようなおもてなしを、民間事業者の方々とも協力をしながら進めてまいりたいと考えております。

また、この第6波と言われているコロナに対応するために、1月末から一般高齢者を対象とした3回目のワクチン接種も開始をしております。それから栃木県にお願いをいたしまして、前回までは県営接種会場が宇都宮、矢板、小山だけだったのですが、足利にもつくって欲しいということで、おかげさまでピバモールの中に接種会場を今回はつくってもらうことができました。土曜日、日曜日に1日630人くらいできますので、65歳以下の方々にも6ヶ月を超えた方には、足利市役所の方で、希望される方には接種券を発行していくことにしましたので、ぜひご理解いただきたいと思います。引き続き、国、県、足利市医師会、足利赤十字病院にご協力いただきながら、接種を進めてまいります。

本日の議題となっております「教育大綱について」と「観光という視点を活かした文化行政の推進について」、教育委員の皆様と意見交換をさせていただきまして、限られた時間ではございますが、有意義な会議にしたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

○ 須藤教育長あいさつ

早川市長様におかれましては、ご多忙のところ、本市の教育行政につきまして我々教育委員会と話し合う時間を設けていただきまして、心より感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

ご案内のこととは思いますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、この中で示されております総合教育会議における協議事項3つ、そのうちの一つに、「教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策に関する協議」という項目があります。これを受けまして、本日は「観光という視点を活かした文化行政の推進について」という議題で意見交換が行われると伺っております。

足利市は歴史と文化のまちです。日本最古の学校である足利学校のあるまちです。市長は日頃から、本市に現存する多くの文化・歴史遺産を「守る」から「活かす」まちづくりについて話をされております。ご案内の通り、足利市の教育目標の目標番号の1番は、「郷土の自然や文化に親しみ、その保護・振興発展に努める」とあります。足利市の文化・歴史を、これからの子供たちや、市民の学び・誇りへ、そして次の100年に向けたまちづくりへ、どのように活かしていけるのか、これからの大きな課題であると思っております。

参会の皆さんの自由な意見交換、幅広い話し合いを通じまして、課題を共有し合い、これからの本市における文化行政にどのように取り組むべきか、その方向性が見出せれば幸いですと思っております。

本日はお世話になりますが、よろしくお願いいたします。

○ 議題（1）教育大綱について

市長

地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、地方公共団体の首長は総合教育会議において、教育委員会と協議をし教育大綱を定めると規定されております。本市では、第7次総合計画をもって本市の教育大綱としておりますが、この度、本年4月からの8年間を期間とする第8次総合計画がまとまりましたので、まずは事務局からその説明をお願いいたします。

教育総務課長

「第8次総合計画」について説明

市長

ただいま説明がありました通り、この総合計画の策定に際しましては、市民検討委員会などさまざまな機会を捉え、多くの市民の意見を聞き、策定をしてまいりました。また総合計画には、教育大綱で定めるべき教育や文化の振興に関する総合的な施策の目標や、施策の根本となる方針が網羅されており、さらに基本計画では細かい施策までも位置付けております。

国では、他の計画を定めている場合は当計画をもって大綱とすることもできるとしていることから、これまでと同様に、第8次総合計画をもって教育大綱とする、ということをご提案したいと思えます。教育委員の皆様のご意見を御聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

笠原委員

第8次足利市総合計画ということで、この基本構想をもって大綱とすることで、大変ありがたいことだと思えます。市政という観点で見て、教育だけをどうこうするというだけではなくて、市の方向と教育というのは相まっていくものということが一つあると思えますし、そういう意味では教育だけを別個に考えるということではなくして、市のあるべき姿とか、あるいは市民の生活の仕方とか、そういうものと色々な形で絡んでいる。そういった意味で、こういった基本構想があって、それと一緒に大綱があるということで、素晴らしいことだと思えます。

特に、例えば15ページの1番、教育・文化とありまして、この中でも一番初めに教育・文化を謳っていただけているということに関しても、やっぱりこれは足利市の教育にかける思いだとか、教育を重視する姿勢ですとか、そういったことがありますし、もちろん市民憲章に日本最古の学校があるというフレーズが一番最初にありますし、15ページの教育・文化の中にも足利学校ということが大きく出ている。まさしくそういう意味では、この方向が素晴らしいことではないかなと、私は思います。

市長

ありがとうございます。そのほかございますか。コロナ禍で長くなりますけれども、学ぶということに対する人々の見方が変わったというか、これまで当然のように学校に行けたものが行けなくなってしまった、で学校へ行きたいとか、学校で学ぶことの楽しさとかそういったことを感じる子供が増えたとかですね。家で時間が増えたので、何かを学び始めようというようなことが出てく

るとかですね、生涯学習の観点からもそうですし、学ぶということに対しての意欲が変わったという指摘もされている中であって、足利市は教育という人づくりを大事にするまちだということを出していかなくてはいけないなと思っております。例えば23ページの「第1章 教育・文化」の中ですけれど、従来は順番が生涯学習が第1節にきていたと思います。その辺をもうちょっと子供たちに最優先にというか、目を向けて欲しいなというのがありましたので、順番が優先順位ではないのですけれど、まずは第1節に、一番初めに義務教育、子供のことを載せて欲しいということをお願いをして、こういう順番にしてもらったところですよ。足利市を挙げてみんなで子供たちを大切に育てていきたいと思いますというような思いが、これは勉強だけではなくてなのですけど、前に出て浸透していけばいいなと思います。会議所さんでも、人づくり、ものづくり、まちづくりと人づくりが先にきているわけですけど、そんな形で我々もしっかりと人づくり、教育ということに近づけていきたいなと思っております。

木村委員

基本計画の重点プログラムの中の1ページ目の「チャレンジの視点」ということなのですが、第2部の重点プログラムのチャレンジの視点、この四番目のところに「若者チャレンジ」、「強みチャレンジ」、「デジタルチャレンジ」、「国際化チャレンジ」ということなのですが、これから時代が大きく転換する中で、教育に関するところもICT化がされて、タブレット化が足利市内でもされたかと思うのですが、その辺の運用等々に関するところの先進的な教育環境を作るというところは、インフラが整った中では非常に重要なことなのかなと考えています。これから教育に関するところも大きく転換をするのではないかなと思いますし、経済とか世界に関しても大きくこのデジタルを生かすことによって、かなり変革するのではないかなと思っていて、教育としても大きな転換点なのかなと考えますので、足利市内でのタブレットを使った教育というところにも力点を置いて、子供たちに教育ができればなと思います。

そういったチャレンジだったりとか、それと国際化というところで、場所を選ばない教育というところも大きく転換する一つなのかなと思いますので、もしかすると姉妹都市であったりとか、そういったところとの交流も含め、海外とのインターフェイスというところでは、タブレットを使ってというのは、非常に有効なことなのかなと思います。私自身が学生時代、なかなか海外との接点というのがなかったので、社会に出て初めてその重要性に気づくというところもありますので、そういったことが小さいうちに経験できるというのは非常に有効なのかなと思いますので意見として。

市長

ありがとうございます。何か現在のタブレットを使った具体的な取組とか今後の方向性とか、あるいは国際化の中での実例とかあったらどうですか。

教育長

今ご提案いただきましたタブレットの活用については、先ほど市長のご挨拶の中にもありましたように、今コロナ禍ということで子供たちには学校を通じて毎日の持ち帰りをお願いしているところです。先ほど木村委員さんの方からお話のありました、ICTを活用しての国際的なものというところでは、ある学校で、小学校なのですけれども、ニュージーランドの子供たちとICTを用いて、それをつなげて同時展開で、英語学習の学びの時間にそれを活用した。そういった事例は、ポツリポツリ出てきております。ただそれが日常化とか、そこまではまだいかない訳なのですが、そういった一つの事例から、そこから派生するものというのは、ものすごく大きいものが出てくると思いますので、教室の中から、先ほど場所を選ばないという話もありましたが、コロナ禍ということで家庭でも使うようになる、そして今度は世界へ飛び出して、この小さなタブレットから外へ飛び出していくというようなところで、活用を始めているところでもあります。

木村委員

ありがとうございます。もし可能であれば、環境が可能なのかどうか分からないのですが、子供の宿題であったりとか授業の習熟度みたいなものが親御さんも確認できたりとか宿題の履行状況とかというところが、もしかすると可視化できたりすると、今の教育ですと子供が宿題をやったのかやっていないのかというのはちょっと分かりにくいところがあると思うので、そういったところが管理できることによって、親が教育に対しての習熟度の確認だったりとか勉強を促したりとか、そういったこともできるのかなと。そういう風になると、家庭と学校というところでの一体化した教育というところもできるのかなと。このデジタル化というのが大きなキーワードになっていくのかなと思いますので、そういったところの仕組みだったりとか。これは教育委員会だけでというのは非常に難しいと思うので、鳥取だったと思うのですが、鳥取はマイクロソフトと共同で参画しながらという形で、共同しながらやっていくようなことを見たことがあるので、そういった外部の方といった接点があって、タブレットの教育を作っていくというのも一つなのかなと思いました。

市長

ありがとうございます。そういうデジタル化とか、ICTかと言われている分野というのはきっと、民間の皆さんと比べて行政というのは遅いのでしょうから、そこは追いついていかなければなりませんし、何も全部我々で考えて全部作っていく必要はなくて、木村委員がおっしゃるように、その分野に長けている方の力をお借りしながら、せっかくのデータをもらって収集して分析して、どういうふうに生かしていくかということについても、省力化を図りながらできる仕組みをとってきている訳なので、形にしていかななくてはいけないなと思っています。

子供の将来の可能性を広げていけるような幅広い知識とか興味とか、そんなものも作っていきたいと思っておりますので、そんな中でやっぱりせっかく色々な民間の企業さんたちと包括連携協定的なものができるので、例えばコーエーさんに言ってプログラムをやりましたけれども、もう少し形を変えて小中学生向けに何かプログラミングができないかとか、生命保険会社さんをお願いをして金融リテラシーですかね、やっぱり子供の頃から金融というものを学ぶ機会があるだとか、そういう中で国際的なこととかも、全部我々が準備して全部やらなくても、せっかくの協定を有効に活用させていただきながら、力を借りながらできることを模索して、少しでも足利で学ぶ子供たちが将来の選択肢とか可能性が増えるようなものを小さい頃から提供していけたらいいなと思っています。勉強とか英語というのはもちろん大事かもしれませんが、幅広くできたらいいなという思いを持っています。ほかにございますか。

松村委員

よろしいですか。本当に教育を大切に、熱い思いで、この基本構想を作ってくれたのだなということが、隅々まで分かる資料をいただきまして素晴らしいなと感じています。先程の木村委員さんのおっしゃった8ページ、9ページの中の重点プログラムの中のチャレンジの視点についてですが、この4点も今まで足利でやってきたこと、それからこれから時代に合わせてやっていくべきこと、今までのことも活かしながら、より良くというところで、本当にとても納得できるチャレンジの視点かなと感じさせていただきました。

その後ろの細かいところ、十分ではないのですが読ませていただいた中で、2点ほど気になるところがありましたので、ちょっとお話に出したいと思うのですが、子供たちが安心な気持ちで、足利で十分持てる力を発揮していくという、そんな育ち方をしていくのに一番やはり基本的に必要なのは、家庭の安定かなと感じておりまして、後ろの分野別計画の中の37ページにあります「外国人と地域との共生」の中の「日本語指導が必要な外国人児童生徒への教育支援」というところにあるのですが、学校教育の中での支援をしていただければ

おりますが、やはり私も経験の中では、その親御さんの方が日本語が分からなくて、子供の方が親御さんに通訳をしていたり、お母さんがずっと家にいたきりになってしまったりとか、そのような状態で経済的にもですが困っているご家庭があり、子供にも色々な影響がある。苦しくなってきたということがありました。その後の56ページの「子ども・子育て支援」の一番下の「支援が必要な子どもや家庭への取組の推進」のところで、「支援が必要な子ども・家庭などへの取組の強化」をここに出していただいて、とても重要なことだと思っていますので、ぜひ具体的で、丁寧に、心に寄り添うような、家庭の中まで寄り添うような支援をぜひ重点的に取り組んでいただけたらありがたいなと思っています。

もう一つ細かいところではあるのですが、通学路の交通安全対策というところで、これは10ページになるのですが、10ページにもあり最後の方にも出ておりましたけれども、県をまたがる道路について、なかなか整備が行われなのまま危険を感じるような道路を通して子供たちが通学をしているということが、まだあるのではないかなと思っていますので、その辺を含めて市内だけでなく県をまたがるような道路の場合も、そこにも整備をしていただけたらと思います。以上です。よろしくお願いします。

市長

貴重なご意見ありがとうございました。外国人児童生徒のこと、それから支援を必要とする家庭、そして通学路ということでありましたけれども、では総務部長。

総務部長

笠原委員にも会長を務めていただいておりますが、国際交流協会の方のお話をさせていただきたいと思っております。先日も新聞報道をさせていただきましたが、外国人の方々を集めさせていただきまして日本語講座をさせていただきました。そういったところで子供もそうなのですが、親御さんをまず日本語講座を通して、またその中で市民生活をどういった日本の文化、習慣があるのかということも交えてやっているということで聞いております。こちらの総合計画を作成するために、市長からも冒頭お話しましたが、市民検討委員会をさせていただきました。そこにも国際交流協会からメンバーに入っております。そういった親御さんたちと自治会との交わりという点で、例えばゴミの出し方とかということも、ちょっと誤解もあって地域との軋轢があるとのことで、その席に出席していただいている自治会長さんが、ぜひそういった方々の中に入って誤解を解きたいというお話がありました。そういうことで、国際交流協会等の協力をいただきながら、共生社会を目指して外国人の方々との共生も進めていきた

いと考えております。また、支援が必要な方についてということで、ちょうどこちらに照本委員もおいでになってますが、商工会議所の女性会ということで、来週の火曜日に貴重な生理用品の寄付をいただくことになってます。これは市長の呼びかけもありまして、そういった貧困家庭の方々に、生活保護よりもちょっと良いけれど苦しい要支援の方々、そういった部分にも学校の方から連絡を取りながら支援をしていくようなことを考えています。また、いただいた寄付を、児童家庭課の虐待その他のご家庭の中で必要があれば、配分の道を考えていきたいということで、できる限りそういった側面的な援助もしていきたいと思っております。

市長

ありがとうございました。自動翻訳機なんかどうなっているのでしたっけ。学校の配備はどうなっているのですか。

教育次長

すべての外国人がいる学校に2人に1台くらいの割合で、50数台配備されて活用されております。

市長

なかなか日本語がというお子さんと親御さんに、ポケトークみたいなものを生徒さん2人に1台くらいは各学校に配備しました。通学路のことは非常に気になっていて、何年か前に滋賀県大津市で事故があった時にも、当時県の方でも県内に声をかけて幼稚園、保育園のお子さんたちの日中お散歩コースであるとか、そういったところを合同点検したりして、重点箇所を洗い出したことがあります。また、足利市でも毎年警察の方なんかも含めて合同点検をしているのですけれど、じゃあもし事故が起こった場合に、行政側としてその危険を把握していたのかと言われたら把握しているのですね、周っている訳ですから。ただ財源の関係もあって、単年度で全部できるかといったらできないのも現状です。そうすると非常に、そこが危ないというのは聞いていたけど対応しなかったとなってしまうのは心苦しいところもあって、本当はやりたいのはやまやまなのですけれども、やっぱり優先順位をつけながらということになっていきます。その間は通学路を見直していただいて、なるべくそこを通らない通学路を学校で徹底していただくとかですね。今朝、国民共済の方々がお越しいただいて、横断に使う黄色い旗を4月に400本、今日700本寄付をしてくださって、これで通学路に役立ててくださいということでいただきました。地元の老人会とかも地域によっては、登下校を見守りしてくれたりということもありますし、皆さんの力を当面は借りながらですね。あと抜本的な構造上の改修は

できないまでも、例えば絵の注意喚起をするものをつけるとか、できるところからやっていきたいと思っています。次年度も通学路の改修の費用については、予算をプラスをしないとという思いを持ってあたっているところなので、大変重要な問題だと思っておりますので、継続的に取り組んでいきたいと思っております。そのほかありませんか。

笠原委員

市長、話がまた横道に逸れてしまうのですが、今、通学路ですとか登下校の交通安全のことに話題がいったので、これはもちろん教育委員会としてでなく、個人ということで検討の材料にいずれしていただきたいということで申し上げますが、ハード面ですとか仕掛けの中で安全性は当然高まっていくものがあるのですけれども、どうにもならない運転者の方の酔っ払いですとか居眠りですとか、ありえない事故が残念ながら日本の中ではいくつかあって、その時に登下校の子供が犠牲になったりもしている現実がある訳ですね。これが足利の中で起こらないのかということ、これも分からない話で、これも選択肢というかあくまでもそれがベストだとは思っていないのですが、やはり登下校の際の小学生の、今中学生の自転車通学は大丈夫なんでしょうけれど、ヘルメット着用を検討していただけないか、あるいはそこに持っていくにはどういうハードル、費用のことも色々ありますけれども、どういう形になればそういう検討がされるのか、幸い事務局さんにはそういった近隣他市の状況ですとか、あるいは課題ですとかを調べてもらっているのですけれども、まだ足利市としては当然その段階に行っていないのですけれども。ただそういうことも考える必要は当然あるのかなと思って、言葉は不適切かもしれないのですけれども、ヘルメットを着用する中で守れる命も確率論ですけれども、高くなるのだろうかと思っています。そういうことも含めて考えることも、どういうタイミングかでは必要なのかなと思っております。以上です。

市長

貴重なご意見ありがとうございました。では副市長どうでしょうか。

副市長

計画自体が皆さんご覧いただいている資料の12ページの記載の通りでありまして、「仁を育み次代の子どもたちに」ということで、義務教育を記載してありますので、当初の議題であります、この基本計画を大綱にするという形の中で皆さんのご理解をいただけたら幸いですので、よろしく申し上げます。

市長

それでは、皆様から貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。こちらからご提案申し上げました通り、第8次総合計画をもって足利市の教育大綱とさせていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

（「異議なし」との発言あり）

ありがとうございます。第8次総合計画をもって足利市の教育大綱とさせていただきます。

○ 議題（2）観光という視点を活かした文化行政の推進について

市長

それでは次の議題に入ります。2番の「観光という視点を活かした文化行政の推進について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

文化課長

「観光という視点を活かした文化行政の推進について」について説明

市長

ありがとうございました。足利におきましても人口も減少する中で、文化財とか文化というものを取り巻く環境というものは変化をして、それをどうやって残して守っていくかということについても、危機感を持って対応しなくてはいけないなと思っております。また市内には、指定登録されているものだけでも、約500の貴重な文化財が残されておりまして、こういったものも守ることと引き継ぐことも大事だと思っております。その一方で、説明にもありましたように、従来の文化財行政というと保存が重視されていて、それだけでは地域の魅力の創出や発信につながらない。やはりこれからは、保存からそれを活用する方向へシフトチェンジをして、文化財を積極的にアピールして地域のブランド化とか地域のアイデンティティというものを復活していこうという方向に向いてきています。足利市においても、大事なことだとは思いますが、守る、残す、研究するということが重要だったと思いますけれど、それを続けながら活かすということが大事なんだと思います。奈良や京都や鎌倉もそうですけれど、やはり先程の資料でもありました通り、文化観光推進法で目指す文化、観光、経済の好循環と書いてあります。まさにその通りで、文化と観光、経済の好循環をまちに作って行って、外需を取り込んで行ってまちの活性化を目指す、持続可能なまちづくりを進めていくというような視点に、もうちょっと

と取り組んでいかななくてはいけないと思います。それによって財源的にも文化や文化財を守る財源も生まれてくるでしょうし、そういった良い循環を作っていくために取り組んでいきたいなと思っています。先程の説明にありました通り、次年度は組織といたしましても、文化観光政策担当というものを新設をして、足利市役所の中でも文化と観光、経済の融合というか、連携を目に見える形で進めていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。それでは、このテーマにつきまして、委員の皆様からのご意見ありましたらぜひよろしく願いします。

笠原委員

さっきと同じような話で、これが市民の総意ということではなくして、特に思うことになってしまいますけれども、多分今から話すこともまたかという話になる訳なのですが。これは住んでいる市民の方でも、あるいは足利市外の方にとっても同じようなことになるのだと思うのですが、足利の差別化というか魅力とか色々なものがある訳ですが、削いで、削いで、削いで一番最後に残るのは、足利学校だと思うのですね。足利学校があることから派生した色々な足利市の魅力とか、足利市の差別化を図れるとかアイデンティティということになってくるのではないのかな。これは勝手に思っているのですけれども。そういう意味では、足利学校の意義とか、価値とか、やっぱり正しく伝わっているかどうかというのは、正しい認識がなければいけないのだと。私からすると足利学校のあるべき評価というのが、なされていない部分が多いのではないかな。価値がもっと理解してもらっていないかと思うのですね、市内でも市外でもということ。ですから私が足利市の魅力とか、足利市の発信ということに関しては、いかに足利学校をうまく表現するか、できるかによっても随分違ってくるのではないかなと常々思っているのですね。それはやっぱり実際過去の歴史が示すものもあれば、今の足利学校が持っている魅力も両方あるのだと思います。過去のことは過去のこととして、史実としてハード面も含めて伝えるものもあるでしょうけれど、やっぱり今の足利学校から派生する魅力というのは、特に今一番やれることだと思うのですね。その時にまた同じ話になるのですけれども、せっかく三代目庠主の五味先生が素晴らしい先生をお迎えができた訳です。本当に、中村先生、前田先生と日本を代表される素晴らしい先生が庠主に就任してくださるのも、足利学校であるからこそ就任くださっている訳ですよ。でもそういうことに関して、もう少し足利学校のそういった位置付けが感じられている向きが弱いかなと。

もう一つ今度はまた話が飛びますけれども、そういう中で足利から派生する色々な芸術・文化がある訳です。幸にして、これもまたかという話になりますけれども、市民会館に3プロというのがありまして、私の個人的なことで恐縮

ですけれども、本当に今素晴らしいオペラが聴ける訳なのですね。そういう意味では、そこもやっぱり足利に教育だとか文化だとか芸術があったという前提から今の3プロになっているのだと思います。ならば、私は足利学校を盛って話すのではなくて、足利学校の正当な評価をしてもらうためにも五味先生ですとか、あるいは大隈監督ですとか、オールジャパンで見てもそれだけの素晴らしい実績のある先生が足利にいらしたり、足利のことで関係してくださるので、もちろんそのお立場で市長が足利の魅力を発信するのは当然とされてですね、ぜひ五味先生ですとか大隈先生ですとか、本当に芸術、文化、教育の面で日本の最高峰の方が足利に関与してくださる、そういう方にも合わせて足利学校の魅力とか、足利の芸術、文化、教育の素晴らしさというのを、一緒になってもらって発信してもらおうと、それはそれで今よりもまた色々な意味で関心が高まったり、市外からすれば足利学校に行ってみようかなとか、オペラを聞いてみようかなとかあるのではないかなと思いますし、そういう意味では、もっともっと今の足利学校の素晴らしさも十分発信できるし、した方が良く私は思っているのです。以上です。

市長

ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。

照本委員

今回この総合教育会議の議題をいただいて、文化行政という言葉がちょっと私には馴染みがない言葉だったので、文化行政とはなんだろうというところから、インターネットで検索させてもらいました。その後に文化行政と観光という形でネットで検索していきましたら、スマートフォンアプリの「まちクエスト」を利用してコロナ前の2019年に八王子で歴史文化財クエストという、ドラクエのクエストですけれど、そういうのが開催されたという記事を見つけました。それはクエストと呼ばれるチェックポイントを市の文化財のオープンデータを活用して設置して、ウォークラリーですね、そのチェックポイントごとに歴史クイズみたいのが出て、それに回答して皆さんが楽しむ、そういうイベントだったみたいなのですが、そこに住んでいる方が主に参加されたみたいで、それに参加することによって、今まで通った道とは、同じ目的地に行くとしても違う道を通して新たな発見があった。そういう感想が書かれていました。自分がする旅行のことをそれで考えてみたのですけれど、旅先のまちの中で行きたいところをいくつか決めて、自分でコースを見つけて、コースを作って回る訳なのですけれど、目的以外の文化財であったりとか意外に、歩いてみると道すがら見えるお寺であったりとか、色々なものがあって、有名なところとかそうでないところ、あまり関係なく気が赴くままに立ち寄っていく訳なの

ですね。そうするとまちの姿もちょっと違って見えますし、歩くことでまちの生活にも触れることができ、歩くということでもちを知ったような気持ちになるという、そういう旅行をすることが自分が好きなのですね。自分が作ることもありますけれども、まちから提供される「まち歩きマップ」みたいなものを活用して周る時には、周った後で、このまちはこういうものを来てくれる人に見せたくて、こんな魅力があるということをお伝えしたいのだからって受け止める時もあるのです。ですので、文化財を活用してここを見てほしいとか、まちの様子を見てほしいというところを、「まち歩きマップ」という形にすると、こちらの思っている姿を受け止めてもらえるようにコースを編集できるかなと感じていまして、足利もたくさんのお寺があって、文化財があって、まちなかだけでなく、私は山前地区ですけれども、もっと離れた部分にもたくさん見るところがあるのです。ですので、有名なところにポイントを置くということも重要なのですけれども、皆さんにまちをもっと広く歩いていただいて、色々なところを見てもらうという工夫があると、逆に見てもらうことを前提に見やすい展示であったりとか、まちとして伝えたいストーリーとかをまち側が考えるようになるので、文化財を活用するという意味では、皆さんにまちを歩いてもらう、そしてまちを歩いてもらうためにどう活用するか考えるという点で、相乗効果というか、活用がしていけるのではないかなと考えました。

市長

ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。そのほかないですか。

木村委員

では、文化と観光と経済の好循環というところで、一つ提案というか、足利市自体、僕は魅力のあるまちだなと思ってます。それは食文化、歴史文化全てだと思っています。ただそれが散在しているということが問題なのかなと思っていて、他市から足利に来た時に、なかなかどこに何があるというのが分からない、住んでみると結構奥深くて、僕のところもかなり色々なものが散在してしまっているというのが大きな問題なのかなと思っています。そこで提案なのですけれども、足利にはフラワーパークがあったりとか、相田みつをさん、あんまり生かされていないと思うのですけれども、こういった資源があると思っています。これは日本全国でも知らない人がいないくらい広報されているものだと思いますので、そこの切り口を重要視して、何かしら動線がつけられなければならないと思っていて、昔なのですけれどもテレビを見ていて、そのまちに行った時に駅から赤い線が引いてあって、それが観光スポットに行けるウォーキングコースみたいな感じで、そこの赤い線を歩いていくと色々な文化財に巡れて、5 km

コースであったりとか、緑の線を辿っていくと10kmコースで、例えば食文化に触れられるというところだったりとか、そういった物理的に誘導するようなものがあつたりというのは聞いたことがありまして、今はデジタル化されているので、そういった地図アプリとの連動で、うまく観光資源だったりとか食資源を紐付けできるような方図があつたら良いかなというのを思っています。僕が例えば家で仕事をしていて、お客様が都内からもいらっしゃって、足利を観光したいという話を打ち合わせの後にして、足利学校あたりをちょっと案内してそのまま放してしまうのですけれども、そこからの紐付けとか説明は非常に難しいなと思っていて、結構泊まりで都内から来てくれる方もいらっしゃったりとか、そういうところではうまく紐付けというのができないのかなと思うので、そういったところに執着するということと、今集客できている観光資源を使って文化財と紐づけられるのかなと思いました。あと経済というところでは、足利は割と下請け的な仕事をしているところが非常に多いのかなと思っていて、ものづくりだったりとかそういったところの切り口から、観光とか文化の案内をできる仕組みがあつたら良いのかなと思いましたので、ご提案ということでよろしくお願ひします。

市長

はい、ありがとうございます。

松村委員

特に子供たちが未来を背負っていく訳ですけれども、郷土愛を育てていくこと、それから夢と希望を持って郷土愛の誇りも持って成長していくということ、言うまでもなく心から願っていることで、それが足利市でも就労などに就く、足利市にその後も生活していくことにもつながっていけばさらに良いかなと感じております。子供たちがそのように育てていくには、大人が足利市が大好きで、郷土愛たっぷり、ここに生活しているかどうか、歴史ある美しいまちであると私は思っていますけれども、強い思いで自負しているか意識しているかというところはまだまだなのではないかなと感じています。大人が本気で足利を好きになっていく、その姿を子供たちがその後ろ姿を見て育てていくということが、本当に何より必要なのではないかなと思います。自分は宇都宮生まれなのですけれども、大きい市ですので、その規模で色々な思いを一つにして進めていくということは、なかなか難しいのですが、足利市の規模ですと市民が丸となって声かけあつて取り組むのに、感覚的で申し訳ないのですけれども、うまくいきそうなそんな規模であると、日頃より色々なことで感じております。市全体で取り組めるような方向で、やはり足利学校が拠点だと思ひますが、全体で地域をつなげてストーリーなどを持って、小学生でも、他市から転入した

ばかりの人であっても、歴史にあまり興味がない人たちにも分かりやすく興味を持てるような仕掛けが必要ではないかなと感じております。先程照本委員からお話がありましたことで、去年の11月、12月頃に「路地まちアートランブル」というイベントがあつて、私もボランティアで参加させてもらったりしてまちを歩かせてもらって、本当に足利の旧市内ですけれども、とても魅力を感じました。ちょっと借家が多くなったりとか、使わない施設が多くなつたなんて感じていたところに、外部の芸術家がそんなところを大切に、自分の作品がぴったりだということで、美術館ではない展示場所の良さを発見してくださって、歩いて周っていくというイベントがコロナ禍の中であまりアピールができなかったようなのですけれども、とてもまちを好きになる良いイベントだなど思っていました。そのようなことを参考に、文化財をめぐる仕掛けや分かりやすいストーリーを作っていただいて、子供たち小学校一年生から馴染める、幼稚園生から段々に馴染んでいけるような、大人と共有できたら良いなと感じました。

市長

ありがとうございました。貴重なご意見ありがとうございました。

個人的な考えも含めてなのですけれども、足利源氏の拠点であったというこのまちのところと、足利学校というものは誇りなのかなと思っています。今の大河ドラマもそうですけど、源氏がなくなった後の北条ではなくて、足利の方に将軍が来たって良かったわけだという見解もある訳で、もうちょっとその辺のことを、おっしゃる通り私たちが正しく評価するというか、認識するというか大事だなと思います。足利学校についても、全国の子供たちが日本最古の総合大学ということで学ぶわけなのですけれども、なかなかその位置付けがはっきりしなくて、足利学校で学んだ人たちがその後こんな活躍をしたという人たちがたくさんいるでしょうし、五味先生の話がありましたけれども、僕みたいな人間だと難しいので、そういうところにもものすごく関心がある人たちもいれば、僕みたいなわからない人もいますので、もうちょっと分かりやすく、その人に応じての説明が、足利学校の価値というものをきちんと伝えていく必要もあるのかなと思います。まずは分かってもらって、足を運んでもらってというところなのかなと思いますし、お陰様で今足利市の仏教会が33観音巡りというパンフレットを作ってくれて、御朱印帳を作ってくれたり、観光協会さんが足利氏ゆかりのお寺、神社のですね、やはりパンフレットと御朱印帳を作ってくれたり、民間の方々がそうやってシャッター通り、足利市内を広く周るという仕掛けづくりを、民間主導でやってくれている取組もありますので、デジタルも生かしながら、しっかりとそのあたりは一緒に取り組んでいきたいなと思います。文化財を残していくのもお金もかかりますので、経済というところにも注目を

して、財源という意味でもやっていかななくてはいけないなと思っています。勉強してみると、そういうまちなんだ、そういう歴史があるんだというのは、多分市内の人も市外の人も、なるほどというところがまだまだあると思いますので、それを我々の方から色々なツールを使って工夫をして、上手に発信していくとかまちの魅力につなげていくということができるようになる。国からしても文化財を経済、観光にということ堂々と言い出したというのは、方針転換というか、よくここまで言ったなという感じだと思うのですよね。昔からすれば、だからその辺はしっかりとその流れに乗って、我々も努力していきたいなと思います。教育長は何かありますか。

教育長

ありがとうございます。先程挨拶の中でも触れさせていただいたのですが、市長さんが色々なご挨拶の中でも文化財のことについてよく触れていただいて、その価値、また先ほども述べさせていただきましたが、守から生かす、そしてそれをまちづくりにつなげていくのだというようなことを日頃から話をしていただいていることを、すごくありがたく思っています。資料の方にもありますけれども、文化財の保護と活用、このことについては、先ほど子供の話も出ておりましたけれども、文化財を次の足利を担っていく子供たちにどう継承していくかというような観点からも必要なことなのかなと思っています。次世代の子供たちに継承していくためには、先ほど正しく評価という言葉が市長が使われておりましたが、やはりその大切さを多くの人に伝えていくことは必要不可欠なことなんだろうなということを改めて感じているところです。文化財を活用することによって、そういう理解の促進にも、また深まりにもつながっていくのかな。知らなければその理解にはつながっていきませんので、そういった意味でも必要なのかなと思っています。

それともう一つの視点が、まちづくりという言葉が市長によく使われて、この総合計画の中にも当然まちづくりという視点での総合計画になっているわけですが、文化財の保護にしても活用にしても、欠かすことができないのが足利市民だと思っています。市民が故郷足利の理解を深め、文化財を継承していくというその担い手として活動していただく、そういう地域社会の発展にもつながっていくものなのかな、それが先ほど出ておりました文化、観光、経済の好循環につながっていくものなのだろうなと思っています。そういったところからも学校の方では、小学校の時から、今持ってきたのですが、この地域教材の「伸びゆく足利」の中にも文化、歴史、芸術等々のことが触れております。こういうふうに小学校の頃から、地域教材を活用した社会科や、または総合的な学習の時間を通じて、一層積極的に学校でも取り上げながら、知識、理解にとどまらず、故郷足利に誇りを持って、故郷足利を愛する心を子供たちの発達段

階に応じて培っていくことが重要なんだろうなということを、改めて皆さんのご意見をいただきながら、市長さんのお考えをお聞きしながら感じたところです。どうもありがとうございます。

市長

ありがとうございます。副市長。

副市長

実務的な面を見た時に、この資料の中で3ページ目に文化・観光・経済の好循環というのがありますけれども、文化財資源が足利市は豊富ですけれども、これを次世代に継承していくには、どうしても費用がかかります。それを好循環で確保することで、さらに足利市の文化財を保存し、あるいは次世代に繋ぐというためには活用しなければならない。文化財を保存、継承、ここにまず視点を置いて、そのために経済を回せるような形を組み立てていこうというような形で私も理解しております。全国の文化観光の認定計画を受けた41市の場所が出てますけれども、ここに我が足利市、足利学校を入れた時に決して遜色がない、それよりも足利の方がずいぶん良いのではないかなと思うところもございます。委員の皆さんから言っていただいたことを踏まえながら、新しい法律に沿って色々な検討をしていけたらと思っています。以上でございます。

市長

委員の方から追加でご意見等ございましたら。

笠原委員

私が教育委員になって一番最初に希望を申し上げたのは、せっかく国宝の漢籍があるならば、それを見られないでしょうかということを書いて、色々工面いただいて、その後一般の方も含めて、ショーケースの中ですけれども見ることができるようになりました。漢籍を読みようもないので、漢字が書いてあるだけしか分からないので。ただやっぱりショーケース越しにしても、これが国宝なんだと思うと、緊張感だとか、見られて良かったなという思いがするわけで、その後も何回か一般公開もしましたけれども。できればやっぱり国宝は、これは文化庁との保存とか警備とかあり大変なんでしょうけれど、いつでも見られるようになっていると本当は良いのではないかなと思ってます。足利に国宝があるのだという当たり前のことを子供から知っているわけなのですけれども、どのまちにも実は国宝がゴロゴロあって、足利には漢籍が4つあって、他のまちにもいっぱいあるのかなと思ったら、その頃ですと群馬県には国宝ひとつもなかったのですね。それくらい国宝というのは貴重であって、謂れとか歴

史が素晴らしいものであるからこそ、貴重なもので国が裏付けを取ったものですから、見るということにどれほどの感動を感じるかというのは人様々だと思いますが、私はできれば常時見られるようになっていると、それが誘客になる可能性があるのではないかなと思います。

市長

ありがとうございます。その他ご意見よろしいでしょうか。

それではご意見もいただきましたので、本日の議題はこれもちまして終了させていただきます。ありがとうございました。それでは事務局の方にお返しさせていただきます。

事務局

それでは以上を持ちまして、本日の会議を終了いたします。大変お疲れ様でした。

○閉会 午前11時20分